大阪市内で発見されたシタベニハゴロモ

松本吏樹郎

シタベニハゴロモ*Lycorma delicatula*（White）は中国、台湾、韓国、ベトナム、インドに分布するビワハゴロモ科の昆虫である。日本では戦前に九州、沖縄、東京などで散発的に記録がある（富沢ほか 2010）ほか、2009年には石川県小松市で定着が確認された。その後福井県あわら市からも発見されるなど生息域は拡大している（梅村ほか 2013、富沢ほか 2013）。本種の成虫や幼虫の寄主植物として、国内ではシンジュとセンダンが記録されており、エゴノキとアカメガシワでは本種の発生は見られないものの成虫の吸汁が確認されている（富沢ほか 2013）。

2017年７月25日に、筆者は大阪市住之江区南港中の道路脇のセンダンの枝にとまっている本種の成虫を発見したが（**図１：12ページ**）、写真撮影中に跳躍・飛翔して見失ってしまった。付近には比較的多くのシンジュ、センダンの若木が生えているが、それらからは幼虫や他の成虫は見つからず、周囲で繁殖している可能性は低いと考えられた。８月１日に同地において再調査を行ったところ、前回確認されたのと同じ木で、メス成虫１頭が採集された（**図２：12ページ**）。

大阪市の港湾地域は中国を中心とした海外からの貨物の流通の窓口の１つであり、外来種が発見される機会も多い（山崎・松本 2006）。また今回の本種が確認された地点は既知の定着地である石川県から遠く離れており、両地域の間では全く発見されていないため、異なるルートで移入した可能性が高い。大阪府下ではセンダン、シンジュは普通に見られる樹種であり、本種は十分定着、分布拡大できる状態にあるといえる。今後の動向に注目したい。

文献

梅村信哉・伊藤勝幸・井上美代子・源野みね子・桜井知栄子（2013）あわら市吉崎におけるシタベニハゴロモ *Lycorma delicatula*（White）の初記録．福井市自然史博物館研究報告 60: 67-68.

富沢　章・林　和美・石川卓弥・福富宏和・大宮正太郎・三上秀彦（2010）日本におけるシタベニハゴロモの発生と分布．とっくりばち（石川むしの会）78: 1-6.

富沢　章・林　和美・石川卓弥・福富宏和・大宮正太郎・三上秀彦（2013）石川県におけるシタベニハゴロモの生態．昆蟲（ニューシリーズ）16（1）: 3-14.

山崎一夫・松本吏樹郎（2006）大阪市の湾岸部で採集された熱帯性のクロスジスズバチ *Delta esuriens* (Fabricius). Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology 16(4): 175-176.

★情報募集　シタベニハゴロモを見つけたらぜひ博物館までお知らせください。

外来種調査、プロジェクトＡの対象種として情報を集めたいと思います。翅をひろげた長さが40〜50 mmと、比較的大きい虫で、12ページの写真のように後翅が鮮やかな赤であることから簡単に見分けられます。シンジュ、センダンで吸汁をしているのが見つかる可能性が高いです。

＜**まつもと　りきお**・博物館学芸員＞

図１：センダンにとまるシタベニハゴロモ成虫（本文は４ページ）。

図２：シタベニハゴロモ（メス成虫、スケールは10mm）（本文は４ページ）。